

せんだい原発、再稼働反対！

‘14-5/2「川内の家」ニュース 5号
連絡先:090-4759-2927 岩下



▲宮里「城」バス停から青山への市道

原発事故時、避難路は車のすれ違い不可能 川内市は住民の安全を守る気があるか？

川内原発が事故を起こした時、ちゃんと避難できるかどうかは、住民の「命」の問題です。ところが川内市長は「原発再稼働に同意するつもり」と言う一方、まともな避難計画も立てていません。それどころか、実際に避難は困難という事例がたくさんあります。

●県道は大渋滞、山越え避難も無理

地域で「川内の家ニュース」を配布中、城地区の女性が「何とかして欲しい」と訴えました。

「川内川沿いの県道 3 号線は、事故時、大渋滞で逃げ切れない。山越えの市道を使うしかないが、道が崩れて車がすれ違いできない。市になんと言っても直してくれない」——と云うのです。実際に市道を走ってみると、アスファルト舗装は山側からの流水でえぐられ、反対側は崖です。軽自動車どうしてもすれ違い不可能、避難が無理であることが判りました。

川内市の住民を守る「本気度」が疑われても仕方がありません。

●渋滞中、車の中でも放射能は防げない

それでは県道を避難する人はどうでしょうか？ 高江地区のインターから橋を通過して北に逃げることにはなりますが、大渋滞は必至です。そのとき車の「放射線防護係数」はゼロとされています(アメリカ環境保護庁の「指針」)。つまり何時間もの渋滞中、100%の放射能を浴び続けるということです。

しかも住民全体が車を持っている、運転できる、とは限りません。高江地区の男性は、「徒歩で避難することになるが、高速道路だから橋には歩道がない」——と話していました。

●「ぶじ避難可能か」、と市長に問い合わせを

車でも徒歩でも、避難は「放射能地獄」に変わりありません。避難後、何年にもわたる「避難生活」の大変さ——生活苦や一家離散などは、福島の場合を見れば判ります。しかし安全に避難できるかどうかは疑わしい。市長に「再稼働して本当に安全か」、と質問しましょう。